英語教育
ENGLISH CLASSWORK

英語指導の可能性を広げる情報誌

2020
通巻551号
Vol.72-1

CONTENTS

巻頭言　高梨 芳郎 ― 1

中英特集　新学習指導要領を読み解く

リスニング指導を考える
西原 真弓 ― 2

主体的な読み手を育てる指導
深澤 清治 ― 4

すぐに始めよう！「即興スピーキング（やり取り）」
胡子 美由紀 ― 6

領域統合型の帯活動の提案
崎濱 功美 ― 8

My Project を活用した授業実践
星野 拓也 ― 10

表現する喜びを感じられる「書く」活動
アダチ 徹子 ― 12

新学習指導要領で求められる評価とは？
深澤 真 ― 14

英語教育時評　島谷 浩 ― 16

開隆堂

コミュニケーション活動に最適!! 表はイラスト,裏は動詞（句）

全国の多くの先生方の声にお応えして,SUNSHINE ENGLISH COURSE 1からついに単体で発売!!

アクションカード・セット

★英語教科書 SUNSHINE ENGLISH COURSE 1についている「アクションカード」がついに単品で発売されました！

★新事項の置換練習，インフォメーション・ギャップ活動，自己表現のヒントなど，多彩に使えます。

★オモテ面に動作を表す絵，ウラ面に動詞と名詞を組合わせた文字を示したカードです。

【アクションカード・セット】
北原 延晃，開隆堂編集部 著
定価 本体2,700円＋税
【セットの内容】
1. 説明書『アクションカードの使い方』
2. 指導用アクションカード36枚1セット
3. アクションカード4枚1組×40セット

好評発売中

開隆堂出版株式会社
KAIRYUDO
本　社　〒113-8608 東京都文京区向丘1-13-1 TEL 03-5684-6118 FAX 03-5684-6155

発行物のご案内はホームページでご覧いただけます。
http://www.kairyudo.co.jp/

巻頭言 Kantogen

これからの英語授業

高梨 芳郎（名古屋外国語大学教授）

国際化，グローバル化の進展とともに，中学生や高校生に英語のコミュニケーション能力の基礎を育成することが喫緊の課題となっている。そのためには，実際の言語の使用場面に配慮した指導の充実を図り，4技能のバランスがとれたコミュニケーション活動やタスクを授業に多く取り入れることが大切である。また，教室という限られた場面でも有意味な言語活動や練習となるよう工夫して，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成することも欠かせない。

コミュニケーション活動は，広くとらえれば，コミュニケーションのための練習とコミュニケーションの活動に分けられる。前者は目標文の構造の理解が終わった段階で，特定の構造に焦点を当てて行う練習である。これは従来の文型練習に意味理解や伝達の要素を加えた練習のことで，生徒同士の簡単な対話や自己表現に近い発話や作文などが含まれる。これに対して，生徒たちが自分の言葉で意味のやり取りをして伝達の仕方を修得するのがコミュニケーション活動の理想である。タスクは現実的な課題や計画に関わる活動で，生徒主体の意味のやり取りを重視した実際のコミュニケーションに最も近い活動である。

中学校や高等学校での英語授業では，文法構造の理解と運用が基本であることには変わりなく，タスクやコミュニケーション活動の前に目標文の提示・理解・練習を充分に行っておくことは欠かせない。だが，これらの基礎をより堅実にするには，文法構造の理解や運用をタスクやコミュニケーション活動とより関連づけることや，生徒自身との関わりを深めることが大切である。目標文のオーラル・イントロダクションでは，対話文に絵を加えて現実や自己との関わりを深めることや本文のリーディングをその後の再話やリプロダクションに繋げること，本文の対話で「通訳」の練習をすることも考えられる。学びの深さや確かさは，生徒自身や現実との関わりの深さによる。新学習指導要領下での英語学習に期待したい。

リスニング指導を考える

西原 真弓
（活水女子大学教授）

1. はじめに

コミュニケーションでは，情報を聞き取る力は重要である。授業内でも英語を聞く機会は増えている。しかし，英語を聞いていれば聞き取る力がつくわけではない。ここでは，新学習指導要領をもとに，リスニング指導について考えたい。

まずは「聞くこと」の目標を見ておこう。

ア　はっきりと話されれば，日常的な話題について，必要な情報を聞き取ることができるようにする。
イ　はっきりと話されれば，日常的な話題について，話の概要を捉えることができるようにする。
ウ　はっきりと話されれば，社会的な話題について，短い説明の要点を捉えることができるようにする。

これらの目標を達成するには，連続音から単語を認識する力を育てる Bottom-up プロセスを含む活動と，全体から意味や情報を理解する Top - down プロセスを含む活動を組み込む必要がある。次節で，これらの活動を５つの視点から考えてみたい。

2. 育成したい力と活動例

(1) 音声認識（分析）力

新学習指導要領解説には，「音のつながりなどが聞き取れるようになるためにも，過度に遅くなく自然な速度に近い音声を聞き取ることを目指している」とある。連続音を瞬時に単語として認識し，意味と結びつける能力を身につけるためには，英語学習初期段階から自然な音声を聞き，音変化などを意識した音読や発話を習慣づけておく必要がある。活動例として，聞き取りが難しい音変化の部分を空欄にしたディクテーションが挙げられる。しかし，ここで大切なのは，聞き取れない部分を聞き取れるようにする方法を教えることだ。音変化が原因で「聞き取れない」ことを生徒が理解できれば，その部分をモデル音声のとおりに集中的に音読させることで強化を図ることができる。音声と同じように発音できるようになれば聞き取れる場合が多いと気づかせることで，日頃の音読活動が意味を持つ。

(2) 必要な情報を聞き取る力

実際の生活の中では，必ずしも音声情報を一語一語すべて聞こうとしているわけではない。必要に応じて聞き取るべき情報や聞き方が変わってくる。また，聞き取れなかった単語や文があっても，状況，文脈，聞き手が持つ背景知識，相手の表情やジェスチャーなどを利用して情報を補いながら理解している。授業の中では，このような Top-down プロセスを生かす聞き方の練習を組み込みたい。

例えば，あるイベントに関する情報を授業で扱う場合，発問次第で聞き方が変わってくる。開催日時，場所，参加費用，参加申し込み方法など，聞き取る必要がある部分を空欄にしたワークシートを使い，特定の情報を聞き取らせる活動を組めばよい。そうすることで他が聞き取れなくても大切な情報を聞く方法を学んでいけることになる。

ただ，ワークシートを埋めていくだけでは，練習のためのリスニングで終わってしまう。ワークシートの情報が次に計画されている別の活動のために必要なものであれば，生徒が聞き取る必然性が生まれる。例えば，各々が別の情報を聞いてきてグループに伝え，それらの情報をもとにグループ全員で参加するイベントを決めるタスクを課せば，思考力，判断力，表現力を同時に養成することも可能になる。

さらに，現実世界では一度で全ての情報が聞き取

れるとは限らないので，そのような時に自分から尋ねる姿勢も身につけさせたい。このためには，聞き取り後，すぐに答え合わせをするのではなく，情報を確認したり，聞き逃した情報を質問し合ったりする活動が有用である。

（あるイベントに関する情報を聞いたあと，ペアで）

A: I know the charity event is going to be held on January 7th, but I couldn't catch the place. Did you catch it?
B: It's at the Soccer Park. We must pay $50, right?
A: No, I think it's $15.
B: Really? Let's check it.

食い違う情報を確かめたい生徒が，“Can we listen one more time?”と尋ねるような主体的な姿勢を習慣づけることも，リスニング指導の一部と言える。CD の音声を聞いて，正しく聞き取れたか答え合わせをする活動だけでは，このようにやり取りしながら情報を得る力をつけることは難しい。

(3) 話の概要や要点を捉える力

リスニング指導の中では，情報を整理しながら概要を把握する聞き方に慣れさせることも大切である。情報整理の仕方を伝えるために，何について話されているのか，大きな枠組みとそれぞれの説明の関係がわかるようなマッピングやアウトラインをチャートにして整理しながら聞くのもよい。さらに，聞き取った概要を Retell することにより，ライティング活動やスピーキング活動へと展開ができる。これにより，思考力，判断力，表現力を駆使して情報を整理しながら聞こうとする姿勢が身につく。

概要や要点を把握させる活動では，教師の発問が重要な役割を果たす。例えば，社会的な話題で話し手の主張が明確なものである場合，要点を聞き取ることに集中した発問，課題解決型では，現状，課題，解決策という文章構成を意識した聞き方ができるような発問を教師が工夫することを心がけたい。

(4) 生徒の質問力

生徒に質問を考えさせる活動も，実は間接的にリスニング能力育成の役に立つ。コミュニケーション能力の育成を目指す授業では，クラスメートの発表に対して 5W1H で質問を考えさせる活動が増えている。質問力を磨くことで，聞き手としては，次の情報を予期して聞く姿勢が育ち，話し手としては，相手が必要とする情報を予期して情報を提供する力がつくことになる。

(5) 推測力・想像力

リスニングには，推測力や想像力が役立つ。Picture Description の活動は，絵やイラストをきっかけに，そこからどのような情報が展開され得るか，推測力，想像力を身につけることができる。また，テキストの途中までを聞かせて，その後どう続くのかを想像させる活動は，既知の情報を生かして想像する力をつけるのに役立つ。

3. おわりに

リスニング指導では，実際に聞き取れる力と情報を聞き取ろうとする姿勢を育成したい。そのためには，ただ音声を聞かせるだけでなく，2 つのリスニングプロセスを組み合わせた活動，他技能を使った双方向の活動をうまく融合することが効果的である。情報を聞き取る力，聞き逃した情報を聞きなおす力，話の文脈や表情などから情報を推測したり整理したりする力など，総合的に育てていきたいものである。

主体的な読み手を育てる指導

深澤 清治
（広島大学教授）

1. はじめに

中学校の新学習指導要領は令和３（2021）年度から全面実施となり，子どもたちが未来を自ら切り拓いていけるような資質・能力を養成することが明確に謳われています。外国語科においても，従来の学習指導要領の目標を踏襲し，外国語によるコミュニケーション能力の育成を目指すことを核としながらも，「知ること（知識）」から「使えること（運用）」への期待がより高まっています。さらに，コミュニケーションの目的・場面・状況に応じて自他の考えや気持ちなどを適切に理解・表現する力を今以上につけることが求められています。

以下では特に「読むこと」において新学習指導要領をどう授業に生かすか，どのように授業を変えていくことができるかを考えてみたいと思います。

2. 新学習指導要領が求める「読むこと」の目標

今回の改訂によって，各技能の目標はいわゆるCAN-DOリストの形式となり，中学校での３年間の授業を通して，「読むこと」で育成する資質・能力がこれまで以上に具体的に示されました。例えば「読むこと」の３つの目標のうち，アの項では，次のような目標が掲げられています。

> ア　日常的な話題について，簡単な語句や文で書かれたものから必要な情報を読み取ることができるようにする。

ここでは生徒が，日々の生活や学校においての話題について，知りたいことや欲しい情報が何かを自ら意識し，目的に応じて必要な情報を読み取ることができるようになることをねらっています。

なお，イとウの項では，「概要を捉える」こと，および「要点を捉える」ことが目標として示されています。

> イ　日常的な話題について，簡単な語句や文で書かれた短い文章の概要を捉えることができるようにする。
>
> ウ　社会的な話題について，簡単な語句や文で書かれた短い文章の要点を捉えることができるようにする。

今後，小学校での学習を踏まえて，「音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かるようにする」（小学校外国語科の「読むこと」の目標）言語活動を行ってきた学習者が中学校に入ってきます。単語や文レベルでの和訳からの脱却を目指して，情報の取り出しや文章全体の大まかな内容を把握したうえで必要な情報を判断できる力を育成することが求められていると言えるでしょう。

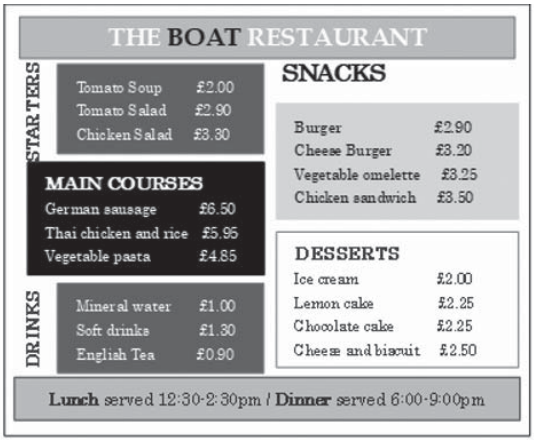
3. 身近な事物などをもとにした「読む」言語活動

「読むこと」の言語活動を進めていくために，読む内容をこれまでよりも緩やかに考える必要があるでしょう。私たちが日常生活において目にする情報には，多様な形態が見られます。テレビやインターネット上の広告，ポスター，場所を示すピクトグラムまで，情報伝達の手段は確実に多様化しています。私たちを取り巻く情報の洪水の中から，いかに速く，的確に情報を読み取り，かつ，それが自分に必要かを判断することが求められています。

(1) 身近な資料から必要な情報を探す読み

新学習指導要領においても「言語活動に関する事項」の中で「読むこと」については，「日常的な話題について，簡単な表現が用いられている広告やパンフレット，予定表，手紙，電子メール，短い文章

など」も読む対象に含めています。文，文章のみならず，図表なども含めた読み物，例えば次のようなレストランのメニューなどを提示して，「自分がそこに行ける時間」に「自分が食べたい（飲みたい）メニュー」があるか，自分の必要な情報を読み取る活動につなげることができるでしょう。



（British Council LearnEnglish Teens の web サイトをもとに作成）

Q1. Does dinner start at 2:30 p.m?

Q2. I don't like eggs or cheese and I only have £4.
What snack can I have?

Q3. It's a really hot day and I need a cold drink. I only have £1, though. What can I have?

(2) 書き手が伝えたい要点を考えさせる読み

このほかにも，身近な公共の場で目にする掲示物，例えば車内清掃のため駅に停車中のJR関空特急「はるか」の乗降口に掛けられた案内板には，次のような日本語と英語の案内が書かれています。

日本語：おそれいります　只今 清掃作業中です
英　語：We are sorry.
Please do not enter while cleaning.

この２つを比較すると，英語版には日本語にない箇所，Please do not enter. が含まれています。このことから，英語では読み手が求める情報がより直接的，具体的に示されているのに対して，日本語では「清掃中」という事実だけを示すことで，「だから今は入れない」というメッセージが伝わる前提であることがわかります。文化人類学で「高文脈」と「低文脈」と呼ばれる異文化間での見方・考え方の違いに気づかせることができるでしょう。さらに，この掲示では，読み手にとって必要な情報を意識させると同時に，書き手にとって最も伝えたい情報の要点を考えさせることもできるでしょう。

このように，教科書の本文から少し離れると，私たちのまわりに多くの身近な読みものがあることがわかります。短く簡単な文や文章であっても，その多くが日常生活において必要不可欠の情報を含んでおり，意味重視の生きた活動に導くことができます。さらに，書き手の意図を読み取る活動においては，ペアやグループになり，生徒同士が考えを出し合って交流するようなアクティブでインタラクティブな活動にすることができるでしょう。

4. 終わりに―アクティブな「読み」へ

４技能のうち，「読むこと」は受け身的な技能と捉えられがちです。授業においても，読解活動は教師の発問で始まることがほとんどです。主体的な読み手を育てるためには，読んだことについて問われて答えを探す学習者ではなく，自分自身で問いを考えながら読もうとする学習者，言いかえれば，問われる学習者から自ら問う学習者を育てるような授業を目指していきたいものです。

すぐに始めよう!「即興スピーキング（やり取り）」

胡子 美由紀
（広島県広島市立古田中学校教諭）

新学習指導要領では，小中高の全教科で「言語活動」の充実を図ることが求められ，「主体的・対話的で深い学び」が視点として取り上げられている。特に，「対話的な学び」に「やり取り」は必要不可欠で，「互いの考えや気持ちなどを外国語で伝え合う対話的な言語活動を重視」することを打ち出している。目指す言語活動として，4技能5領域を意識し技能どうしを統合させること，特にスピーキングは,「発表」と「やり取り」に分けて捉え，しかも「暗唱ではなく即興で」という目標設定がなされている。

小学校でもSmall Talkを含め「やり取り」が推奨され，体験的に学んだ子どもが中学校へ入学してくる。だが中学校では，先生方が二の足を踏む傾向があるようだ。そこで，「やり取り」のポイントと実践例をご紹介する。「活動→確認・指導→活動…」のスパイラルを自然につくり出せる言語活動ばかりだ。“Output & fluency first!”を軸にする筆者の実践が，授業改善のヒントになれば幸いである。

1.「やり取り」の重要性

新学習指導要領によると，自分のまわりの社会や世界と関わり，真のコミュニケーションをとる中で英語力を育むことがねらいとなっている。それには，他者の考えから自分の考えを再構築する場をつくることが必須だ。他者とのやり取りの中でこそ違いに気づき，自分と異なる見方・考え方があることを理解できる。さらに，ペアやグループでの即興のやり取りを中心とした言語活動は,生徒の発話力をつけ，かつ思考力・判断力の獲得にも効果を発揮する。

2.「やり取り」の前に（前提条件）

「やり取り」を中心とした言語活動が増えると，生徒が英語を使う機会が増える。「やり取り」の肝は，発信や受信を英語で行うことだが，生徒の言語バリアと心理バリアを取り除かなくてはスムーズな活動は行えない。そこで，次の2点を挙げたい。

① ラポールの構築
② 流暢性の重視とInteraction Modelの提示

生徒にとっては，英語に触れること自体が異文化体験だ。間違いを恐れ,発話をためらう生徒もいる。まず，生徒が安心して自分を出せる環境づくりが必要だ。教師と生徒，また，生徒どうしで信頼関係を築き，お互いをRespectすることが成功のカギとなる。アクティブに英語を使う雰囲気や流暢性重視の帯活動によって即興発話への自信を持たせる中で，バリアを取り除くことができる。間違えることに寛容な温かい人間関係の構築が,「やり取り」を中軸に据えた授業には不可欠である。

3. 実践の具体例

(1) Student Teacher

授業冒頭で教師の代わりに，その日の教師役になった生徒（ST）が授業を進める活動だ。

①STによるGreetingsとスピーチ
②聞き手からの質問とコメント
③言いたかったが言えなかった表現の確認

①では，STが自分で選んだトピックでスピーチを行い，インタラクティブに聞き手を巻き込む。聞き手は相づちなどのリアクションを返し，既習語彙と表現を活用してその場で質問とコメントを考える。②では，聞き手の問いに対してSTも瞬時に思考・判断して応答する。教師はRecastでフォローする。生徒主体の活動では，自然な即興のやり取りの中で気づき，学ぶ機会がたくさんある。

聞き手の参加を促すくり返し，相づち，問いかけやFillerなどの対話の継続に必要な表現を，普段

から使わせることがポイントだ。生徒の負荷を下げ，知識を注入せずとも「使いながら習得」に導ける。

「即興のやり取り」では「言いたかったが言えなかった」表現が必ず出るが，この葛藤が即興のやり取りにおける醍醐味だ。「知り（言い）たい」という意欲が引き出され，初めてことばに命が吹き込まれる。知的にハングリーな状態となった生徒は辞書で必死に表現を探す。教師に質問してきた場合は，ヒントを出しながら生徒自身から表現を引き出すのがミソだ。学んだ表現とスキルは次時に使うチャンスがある。

(2) Small Talk

Small Talk は小学校外国語教材 *We Can! 1, 2* を指導する際に行われる言語活動で，「帯活動で，あるテーマのもと，指導者のまとまった話を聞いたり，ペアで自分の考えや気持ちを伝え合ったりすること」と定義されている。また，移行期間における指導資料（2019, 文部科学省）の中に，中学校では「内容の伝え合いを重視。その中で必要な指導を行う。（活動を通して指導する）」が Small Talk のポイントとして明記されている。

「表現の定着」と「対話の継続」が Small Talk のねらいだ。小５では教師対児童，小６では児童対児童のやり取りが軸になる。筆者が大切にしているのは「生徒対生徒でもう一度話す！」だ。

①トピックを決めてペアで話す（2 分）
②言いたかったが言えなかった表現の確認（2 分）
③ペアを替えて話す（2 分）

③では同じトピックなので自信を持って発話でき，言えなかった表現を使う機会ができる。教師は，次に生かせるものをフィードバックする。慣れてきたら，発話を再現させてクラスでシェアしたり，発話の展開に必要な要素を考えさせたりするのもよい。

生徒に馴染みがあるトピックは，とっかかりによい。活動が定着したら，教科書の題材関連のトピックがおすすめだ。本文に入る前に興味を持たせたりスキーマの活性化を促したりすることができる。

（3）Reporting Chat

Small Talk では同じトピックについて相手を替えて伝えるが，この活動では伝える内容に変化を持たせる。4 人グループで行い，生徒は 3 回同じトピックでやり取りをする。

①横ペアで話す（2 分）
②斜めペアで聞いた内容をレポート（30 秒× 2）
③前後ペアでレポート内容の確認（30 秒× 2）
④言いたかったが言えなかった表現の確認（2 分）

この活動では，主語に応じて動詞も変化し，短い時間で頭をフル回転させなくてはならない。（主語が②では三人称，③では二人称になる）②③では 2 組が一斉に話すので，集中し聞く力が培われる。また，活動後の書く活動で Accuracy も補完できる。

ご紹介した言語活動は，どれもやり取りを行う必然性がある活動だ。生徒が使いながら必要な語彙・表現を獲得し，内容重視の活動と展開にできる。

「即興のやり取り」を取り入れ，さらに授業の流れがインタラクティブになるように意図的に仕掛け，授業をデザインしてみよう。生徒たちは教師の期待値に合わせて成長する。先生方ご自身も自分に限界をつくらず，生徒が自分の知識と英語力をフル回転させる「即興のやり取り」に挑んでいただきたい。

「やり取り」は相手のことを知りたいから行うもので，言語的なスキルや表現の習得が目的になってはならない。相手を思って行われる授業での温かい「やり取り」が，学校生活の楽しみとなり仲間とのよい関係構築の布石になることを願っている。

領域統合型の帯活動の提案

崎濱 功美
（沖縄県今帰仁村立今帰仁中学校教諭）

1. はじめに

現在「話すこと」の領域では，Small Talk をはじめ言語活動，パフォーマンステストなど工夫を凝らした取り組みがなされている。そのような中，「授業でどう Small Talk を扱えばよいのかわからない」という先生方も多くいるであろう。さらに，「スピーキングをどう評価したらいいのか」といった声もよく耳にする。そこで，本校で実践した領域（技能）統合型帯活動およびパフォーマンステストについて紹介していきたい。

2. 領域（技能）統合型の Small Talk の提案

Small Talk は，小学校英語で積極的に実践されており，中学校でも引き続き，より発展的に継続実践していく必要がある。新学習指導要領が示す思考力，判断力，表現力等を育てるために，領域（技能）統合型の言語活動を Small Talk でも意識して実践できないかと考えた。

(1) Listening & Speaking 統合型

ここで紹介するのは，あるまとまりのある英文を聞き，その中から必要な情報を整理し，自分のことばで相手に伝える Listening & Speaking 統合型の活動である。「即興で相手に何を伝えるのか」という視点で Small Talk のデザインを考えると，これまでよく授業で実践してきた Picture Describing や Free Talk では，英語の発話量を増やすことはできるものの，コミュニケーションの質という点では限界があるように感じる。くり返し自分のことばで表現する場面をつくることは，「即興性」を身につけさせるために必須であるが，コミュニケーションの質を向上させるためには，「伝える内容」の充実も必要となってくる。

小学校の Small Talk を発展させるために，中学校では「即興性」「伝え合う内容」を重視したコミュニケーションの量と質の向上が求められる。

(2) Activity「Hero Interview」（1 年生）

（インタビューを聞いて，相手に伝えよう！）

①活動の時間　7 分

②目標

ア　話すために聞く：必要な情報を聞き取る力を身につけさせる

イ　必要な情報を話す：限られた時間でまとまった内容を即興で話させる

③活動の進め方

ア　ヒーローインタビューを聞く（2 分）

イ　インタビュー内容を全体で確認する（2 分）
キーワードを提示する

> ex) What does she play?
> What's her hobby?
> What language does she speak? etc.

ウ　Retelling & Word Counter（3 分）

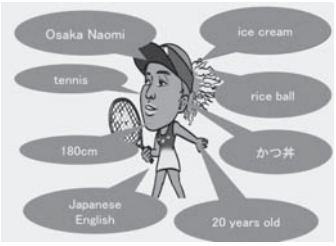


図 1　内容確認のためのスライド

動画再生アプリでテニスの大坂なおみ選手のヒーローインタビューを聞いたあと，教師がその内容について英語で質問（wh-Question）し，クラス全体で内容を確認した。ここで難しい単語や表現の確認も併せて行い，キーワードを提示した。Retelling ではペアになり，一方はインタビューの内容を話し，もう一方は Word Counter で語数を数えた。制限時間は 1 分間とし，ペアで交代して行った。

④活動のポイント

最後に行う Retelling を意識して，しっかり英語を聞く。本活動では，インタビューを聞いたあとで，その内容を確認する際に英語を用いたが，日本語でもよいと思う。聞いた内容を明確にすることは，話す活動の充実につながる。

3. スピーキング力を測るための パフォーマンステストの提案

パフォーマンステストは，課のゴールに関連させて，毎時間実践される Small Talk をはじめとする言語活動が有機的に結びついた力を測るものである。そのためパフォーマンステストは通常，単元の最後に位置づけ，総合的に評価するが，ここで提案するパフォーマンステストは学期に１回程度実施する。

(1) 評価基準表とタスク

評価基準表の作成は，２つの既存の尺度を参考にした。学習指導要領と関連している「ヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）」とスピーキングの口頭試問試験 Oral Proficiency Interview で有名な「ACTFL 言語運用能力基準（ACTFL-OPI）」である。「話すこと」における領域に特化し，「やり取り」「発表」の２種類の評価基準表となっている。スピーキング力を評価する観点として「言語機能・トピック」，「発音・強勢・イントネーション」，「語彙・文型・複雑さ」，「流暢さ・態度」の４つの下位項目に絞り，スピーキングレベルは５段階とした。

タスクは，「やり取り」「発表」の領域に応じて実施できるようそれぞれ準備した。これらのタスクは，主に描写（Description）および問題解決型（Problem Solving）ロールプレイのタスクである。

(2) 検証と実践

本校で，2，3 年生を対象に検証を進めている「やり取り」のタスクの一部を以下に紹介したい。

You are going to go to PARCO to see a movie this Sunday.
Please ask Isami and talk about next 3 things.
1. When 2. What time 3. Place

Isami 先生をパルコに映画を観に行こうと誘ってみましょう。
次の３つを決めてください。
①いつ ②何時 ③待ち合わせの場所

図２ パフォーマンステストの内容

タブレットを用いて上記タスクを生徒に示した。事前に準備する時間として 20 秒程度与え，また教師側の発話を一定に保つためにスクリプトも用意した。テストは，ウォームアップの時間を含め４分間で実施した。

このような Proficiency Test の性質を持つパフォーマンステストは，生徒が自分のスピーキング力を把握できると同時に，次のレベルに到達するためにはどのような力を身につければよいのか具体的に理解できる点において優れている。単に現時点のスピーキング力を測るだけのテストから，次の学習へとつながるテストへの変容を目指している。評価基準表およびタスクについては今後も検証が必要である。

4. おわりに

学習指導要領改訂に伴い，「知っている」ことから「使うことができる」レベルまでの学習到達が，より強く求められている。質の高いコミュニケーション力を身につけさせるためには，今後ますます「領域（技能）統合型」の言語活動の充実が望まれるであろう。

生徒にとって主体的な学びになるよう，生徒自身の「学習改善」と教師自身の「授業改善」を同時に進めていきたい。

My Projectを活用した授業実践

星野 拓也
（宇都宮大学教育学部附属中学校教諭）

授業の終わりに，ある生徒が話しかけてきた。「先生，英語室に貼ってあるポスター，いつ作るんですか」美術部員の彼女は，*Sunshine English Course 3* の My Project 8「日本文化を紹介しよう」の学習の一環で，毎年3年生が作成し，英語室の一角に掲示しているポスターを，自分も作りたくて楽しみにしているのだという。「2学期のまとめでポスターを作って発表するよ」別の生徒も加わり「テーマは自由ですか」「グループでやりますか」「みんなの前で発表しますか」「ビデオは撮りますか」などと話は続いた。

英語室掲示コーナーの様子

生徒の様子やその時々のニュース，教科書の題材などに合わせて，即興的な「やり取り」を日常的に行うことはイメージしやすいが，「発表」となると生徒にとっても，それを指導する教師にとってもハードルは上がる。その点で，*SUNSHINE* の My Project は「話すこと（発表）」の活動を行うのに非常に使い勝手のよい教材だ。学期ごとにまとめとしての発表プロジェクトがあるおかげで，中長期の目標や学習の見通しが持ちやすい。英語で話すことが苦手な生徒も，「1学期に1回だったら」と納得できる，無理のない設定だ。発表テーマも生徒の興味・関心を引くものだし，段階を追ってインプットからアウトプットの活動を行えるように工夫されている。これを最大限に活用し，生徒の話す力を高めたい。ここでは，今年度私がどのようにこの My Project を活用し，「話すこと（発表）」の実践を行ったかを紹介する。

何を発表するか

My Project 8 ではモデルとして日本やアメリカの伝統的な行事，有名な祭りが紹介されている。発表を楽しみにしていた生徒の様子を思うと，必ずしも「伝統」的なものや「有名」なものばかりを発表したいわけではなさそうだと判断し，ALT に相談した。アイルランド出身の ALT は，先日行われたW杯を3回も試合会場で観戦するほどのラグビーファンで，スタジアムで仲間とビールを飲みながら観戦すること，他国のユニフォームを着たファンと交流を深めることの楽しさを語ってくれた。また，他国の国歌を調べて歌ったり，試合後に会場を掃除したりする日本のファンの姿を見て感動したという話も。それをそのまま生徒に語ってもらったところ，生徒は身を乗り出すように話を聞いた。

これを受けて，生徒一人ひとりが，自分自身を語ればよいのではないかというのが私たちが出した結論だ。自分が本当に好きなこと，興味や関心があることを話し，聞いてもらうことが，話し手・聞き手双方にとって価値のあるものになる。日本文化を柔軟にとらえ，教科書や ALT のモデルを参考にしながら生徒に話すトピックを選んでもらうことにした。今年度，生徒が選んだものをいくつか挙げると，

- 日本の発明家，発明品
- Eテレの番組
- 和製英語
- 日本の神々
- 日本の駄菓子

など，さまざまな分野にわたって幅広いトピックが選ばれた。トピックを選ぶ生徒たちの様子はとても楽しそうだった。

よい発表のために

基本的には４人グループで１つのトピックを選び，A3 判サイズのポスター制作と発表を行う。例えば，「日本の祭り」をトピックに選んだグループならば，１人が春の祭り，もう１人が夏，といった具合で，一人ひとりの生徒に担当するパートを持たせる。どうしてもこのトピックでなくてはならない，という強いこだわりを持った生徒はクラスに必ずいるので，個人で活動をしてもよいことにする。それぞれの思いが強いトピックについて話すことになるため，自分が伝えたいことを英文にまとめる活動が重要となる。ノートやポスターに書いてまとめる英語と，クラス全体に話して聞かせる英語は必ずしも同じではないため，指導が必要だと感じている。

発表では，教科書のチェックリストにもあるように，原稿を見ないで，英語らしい音に配慮しながら，聞き手を意識して，内容をわかりやすく伝えさせたい。だからこそ，十分に練習をすることは当然だが，話すことを意識した「スピーチ」の原稿を仕上げる作業も大切にしたい。例えば，書いた文章を見直して，長い文章の一部分を削ったり，短い文に分けたり，話の間を入れるタイミングがわかるようにマークを記入したりなどの作業が挙げられる。英語が苦手だという生徒には，英文を書いてまとめる活動の際に，伝えたいことを SVC や SVO の形に整理し，その場で英語に直して言えたことだけを原稿に書かせた。せっかく一生懸命に英文を書いたものの，発表の場面では覚えた文を「再生」するのに必死な生徒，原稿を「ガン見」してしまうような生徒が，英語で話すことを楽しめるようになるとよいと思っている。

発表したあとは

生徒はポスターを見せながら全体に発表をする。グループのメンバーどうしで掛け合いをしたり，聞き手に問いかけたりと，インタラクティブに発表を進めるグループもあるが，Any questions? などと聞き手に発表に関する質問や感想を求めることは，全ての発表者にさせたいところだ。聞き手は集中して発表を聞くことになるし，質問や感想の言い方を高められる機会となる。例えば，感想を言う場合であれば，そう思った理由も含めて述べるようにさせた。

また，今年度は発表後，話すことのパフォーマンステストを個別に行った。クラスで発表されたものの中から，比較的話しやすいと思われるトピックを精選し，そこからランダムに１人１つのトピックを生徒に与える。生徒は１分間の準備のあと，それについて１分間英語で話す，というものだ。一度発表を聞いたあととは言え，急に振られたトピックについて１分間英語で話すというのは３年生にとっても難しいようだったが，新学習指導要領にも見られるように，即興性を意識した言語活動が今後ますます求められる。生徒がさまざまな話題に関して自分の考えや気持ちなどを短時間で整理し，話して伝えられるように，普段の授業でも意識した指導と評価を工夫したい。

パフォーマンステスト後には，My Project の活動の振り返りを全体で行った。もちろん，英語室のポスターは今年度の生徒が作成したものに貼り替えた。発表を聞いていない他クラスや他の学年の生徒も，足を止めてポスターを眺めている。来年度もこの活動を心待ちにする生徒が現れたら嬉しい。

表現する喜びを感じられる「書く」活動

アダチ 徹子
（筑紫女学園大学教授）

1. はじめに

書く力の育成は難しい。私自身大学で長年英語を教えてきて，試行錯誤をくり返してきた。書く活動には時間がかかるし，書かれたものをチェックしたり添削したりするのは大変である。そもそも書くことに気が乗らない学習者が多い。私がたどりついた１つの方策らしきものは，「学生どうしを仲よくさせると，自然に書く気を起こしてくれる」というものである。毎回席替えをしたり，書いたものを読んでコメントし合ったりといったことを続けていくと，仲よくなった人に読んでもらうのが楽しくなって，内容をおもしろくしたり，伝わりやすくなるように工夫したりする。「友だちが読んでくれる」ことは，教師の働きかけより効果的であると実感した。

こんな試みをするきっかけの１つは，ある先生の実践に触発されたことである。その先生とは，本誌Vol.71-1 に「読み物教材で心豊かに」を寄稿された，宮崎市立赤江東中学校指導教諭の遠目塚由美先生である。また先生に報告していただくのがいちばんよいが，長年のファンの１人である私の解釈も交えて，遠目塚流の「書く」力の育て方をまとめてみる。

2. 書くことの基礎となるもの

(1) 英語らしい音と文字との結びつき

遠目塚先生は，以前から「生徒の聞く・話す力を鍛えたら，書く力が伸びた」と仰っていた。これは，単に授業が口頭の活動に終始しているということではない。まず，中１の最初の時期には，英語の音を正しく聞き取り，自分でも発音できるようになる活動を丁寧に行うとともに，文字と音を結びつけるフォニックスの指導にも力を入れる。これがのちに「発音できる語は綴れる」「未知の語でも綴りを見て発音できる」といった力や自信につながる。

今の中学生は，小学校でたっぷりと英語に慣れ親しんでいるので，それをうまく中学校での学習につなげることが重要である。

(2) 表現活動を多くする

小学校では，話題や場面を設定し，英語を使って目的を達成するようなタスク的な活動を多く行っている。遠目塚先生の授業でもさまざまな活動が行われるが，生徒はすぐに活動を理解し，積極的に取り組んでいる。とは言え，１年生が一般動詞の学習の前に誰かになりきる“Who am I?”クイズ大会の授業には驚いた。普通は一般動詞を導入し，説明や練習をしたあとで「では一般動詞を使ってクイズを作ろう」とするのではないだろうか。しかし，動詞をあまり知らない状態で取り組み，なりきった相手が行う動作についてうまく表現できないからこそ，次時の「実はこういう言い方だとうまく表せる」という学習が「そうか！」と生徒の気づきにつながるのだろう。

(3) 練習量

先生の授業では生徒がずっと考えたり話したりしていて，とても忙しい。この練習量の多さは触れる英語の多さでもあり，生徒の豊かな表現につながるのだと容易に想像できる。

3. 書く活動の仕掛け方

遠目塚先生の「書く」活動は，一般的な方法とは反対に思えることもある。以下にいくつか紹介する。

(1) 文法説明

教師は，英語が苦手な生徒のためによかれと思って丁寧に説明しがちであるが，実はそんな生徒ほど詳細な説明に混乱しがちである。遠目塚先生は本当に大事なこと以外の説明を「そぎ落とす」。できるだけ早く，実際に新しい表現を使う活動に移っていく。

(2) 時間の与え方

先生はじっくり考える活動と即興性を高める活動を使い分けており，書けない生徒のためにたっぷり時間を与えるとは限らない。即興の場合は，「2分で考えて書く」など容赦ない。生徒は集中して考え，すぐに表現できるよう鍛えられていく。

(3) 書く宿題

1年生の半ばから，英作文の宿題が登場する。内容はなんでもよく，日々の出来事，創作した物語，スキットなどさまざまで，苦手な生徒は教科書を写すだけでもよい。「週に50文，1年で1,000文」が目標だが，2年生になると4月から始めて12月には達成する生徒が多いという。なぜそんなに生徒が進んで書くのか。それは「表現する喜びを知った」からだと先生は言われる。もちろん宿題を課すだけで生徒が喜んで表現するようになるわけではあるまい。あの手この手で「喜びを知る」ように先生が仕組んだことが，生徒の言語活動の随所に生きており，書く宿題もその1つにすぎないのではないかと思っている。

4. 表現する喜びを実感させるには

(1) 先生がほめてくれる／友だちが読んでくれる

「忙しいときはやっていない」そうだが，生徒が書いてきたもののうち，よいものやおもしろいものをまとめて印刷して配布する。自分の書いたものが載った生徒はうれしいし，他の人の文を読んで，自分も書いてみたいと触発される生徒も出てくる。日頃から先生はユニークな発言や発表を大いにほめている。

(2) 友だちと高め合う

例えば授業中に，新しく学習した「ask ＋人＋ to 動詞」を使って，「友だちと遊ぶ約束をしていたのですが，待ち合わせの時間に遅れてしまいました。遅れた理由を説明しましょう」という課題が出されたとする。生徒はまず1人で文を考え，それからグループ内で発表し合う。グループでいちばんよいとされた人が全体に向けて発表する。ここで終わらず，各自が自作の文をレベルアップさせたり，別の設定での課題に取り組んだりする。また，先生が意図的に指名した生徒も発表を行う。この活動により，自作の文を聞いてもらったり，友だちのよい表現から学んだりといった学び合いが起きる。他の人の表現を参考にして自分の文を改良することで、長くなったり説得力が増したりといったレベルアップした文を書くことができるようになり，自分の成長が実感できる。

(3) 豊かな人間性を育てる

本誌 Vol.71-1 にあるように，読み物の単元を学習する際に遠目塚先生が目指す生徒像は，「これまでに培った知識，技能を総動員して，読み物教材から何かを感じ，国際社会の平和と発展のために，まわりと協働して一歩を踏み出そうとする態度を身につけ」た生徒である。この熱意が生徒に伝わらないわけがない。マララ・ユスフザイさんを取り上げた課の授業では，教育，貧困，子どもの権利など，多くの課題について生徒たちの意見が飛び交い，真剣に自分の考えを書き留める姿が見られた。

5. おわりに

結局，書く力を伸ばすためには，生徒の「心」を揺さぶらなくてはならないということではないか。文法や語彙の学習ももちろん必要であるが，生徒が書く喜びを知り，自分の成長を実感できるような授業をつくることが，結果的に書く力にも効果をもたらすように思われる。今一度，教師としての自分の姿勢を振り返ってみたい。

新学習指導要領で求められる評価とは?

深澤 真
（琉球大学准教授）

1. はじめに

新中学校学習指導要領では，教育課程全体を通して育成を目指す資質・能力として（1）知識・技能，（2）思考力・判断力・表現力，（3）学びに向かう力・人間性の３つを柱としています。本稿では，これら３つの観点から新学習指導要領でどのような評価が求められるのかを検討します。

2.「知識・技能」の評価

３つの柱のうちの「知識・技能」とは，何を理解しているか，何ができるかということです。具体的に英語では，①音声や語彙，表現，文法，言語の働きなどの知識と，②それらの知識を活用して聞いたり，読んだり，話したり，書いたりできる技能を指しています。「知識・技能」は，これまでにも一般的に評価されてきた資質・能力と言えるでしょう。例えば，授業で依頼の表現である Can you ～？（～してもらえませんか）や Could you ～？（～していただけませんか）の表現を学習したとします。この知識が身についているかどうかを測る方法の１つが，テストで以下のような問題を出すことです。

> **問**　日本語と同じ意味になるように（　）に適語を入れなさい。
>
> ドアを開けてもらえませんか。
>
> （　　）you open the door?
>
> **問**　Could you ～?を使って文をつくりなさい。

コミュニケーションを支えるものとして，知識や技能は大切です。しかしそれだけでは，実際のコミュニケーションで活用できるかどうかはわかりません。いくら料理の知識や包丁を上手に使う技能があっても，実際に料理をつくれるかどうかわからないのと同じです。そこで知識・技能をコミュニケーションでどう活用できるかを見ることが必要になります。

3.「思考・判断・表現」の評価

理解していること･できることをどう使うかが「思考力・判断力・表現力」に関わる２つ目の柱です。実際のコミュニケーションでは，自分の持っている知識や技能を活用しながら，目的や場面，状況などに応じて，どのようなコミュニケーションが適切かを考え，判断し，表現したり伝え合ったりすることが求められます。この「思考力・判断力・表現力」を評価するために大切なのが，以下の３点です。

(1) コミュニケーションの場面･状況･目的の設定

場面，状況，目的を設定することにより，それらに応じたコミュニケーションを考え，判断し，表現することが必要になります。つまり，思考力・判断力・表現力を評価するための行動を引き出すのが場面設定なのです。

(2) 表現の自由度

「話すこと」「書くこと」の産出技能を評価するために，多くの場合，生徒に実際のパフォーマンスを求めます。その際，使用する表現を生徒自身で選ぶことができる自由度が大切です。表現の選択肢があることにより，（ジェスチャーなどの非言語コミュニケーションも含めて）どのような表現を使うか生徒の思考力や判断力を引き出すことができます。

(3) ルーブリックの活用

（2）のように実際のコミュニケーションを求めるパフォーマンス評価で役に立つのがルーブリックです。ルーブリックとは，評価の観点ごとにどのようなパフォーマンスが見られれば，どのような得点（または評価）を与えるかをまとめた評価基準表です。ルーブリックを活用することで，評価者が主観的に判断してしまいがちなパフォーマンス評価を，より

客観的に行うことができます。

では，パフォーマンス評価の例を具体的に見てみましょう。前提とする学習内容は，「知識・技能」の例と同じ“Can you ～?”,“Could you～?”です。

> **指示** 以下の場面に基づいて，ALT の先生と英語でやり取りをしてください。
> **場面** あなたは吹奏楽部の部長です。今週末のコンサートに来てもらえないか，ALT の先生に尋ねましょう。

この評価タスクでは，学習内容を知識や技能として知っているだけでは十分ではありません。部長として ALT の先生にお願いする比較的フォーマルな状況であることや誰と話しているかを考えて，状況に合った適切な表現を判断し，コミュニケーションをとる必要があります。このタスクで引き出した生徒のパフォーマンスを，以下のようなルーブリックに基づいて評価します。

評価	思考力・判断力・表現力
A：十分満足	相手を意識して適切な表現を選び，十分適切に依頼することができた。
B：概ね満足	相手に対する意識，または表現に不十分な点が少しあるが，概ね適切に依頼することができた。
C：要 努 力	相手に対する意識や表現とも不十分で，適切な依頼になっていない。

ここでは産出技能である「 話すこと（やり取り）」を例に挙げましたが，「聞くこと」,「読むこと」の受動技能でも，目的や場面設定などが重要なのは共通です。例えば，海外旅行のために空港に来ている場面を設定し，英語のアナウンスから自分の搭乗する便についての情報を聞き取るようなタスクでは，状況を考え，どのような情報を聞き取らなければならないかを判断し，聞き取る能力を測ることが可能です。

4.「学びに向かう力・人間性」の評価

3つ目の柱であるこの資質・能力については，背景にある文化への理解を深め，相手に配慮しながら，主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしているかどうかの評価が求められます。

「聞くこと」については，アイコンタクトや相づちをしながら聞いているか，聞いた内容について質問しているかなど，主体的に聞く際に現れる具体的行動をもとに評価するとより客観的な評価となります。

「話すこと」についても同様です。前述のパフォーマンス評価の例であれば，自分から話しかけているか，アイコンタクトやジェスチャーなどを使いながら話しているかを観察し，評価することができます。

「読むこと」,「書くこと」では，読んだ量や書いた量を見ることでも主体性を測ることが可能です。主体性自体は目に見えないので，主体性の現れる行動に着目して評価を行います。

5. おわりに

評価は，学習到達目標や授業と密接に結びついています。授業ではコミュニケーションを中心に行っているのに，テストはリーディングや文法に過度に偏っているような場合，適切な評価をしているとは言えません。「知識･技能」ばかりでなく，「思考力･判断力・表現力」を評価するのであれば，授業でもそれらを育成するコミュニケーションの指導が求められます。授業で育成した力を適切に評価することで，生徒に自信や意欲が生まれ，さらに主体的な学習につながっていくのです。

●参考文献
小泉利恵・印南洋・深澤真 編（2017）.『実例でわかる英語テスト作成ガイド』大修館書店 .

英語学習語彙の大幅増について

島谷 浩（熊本大学大学院教授）

平成 29（2017）年に告示された『中学校学習指導要領』が施行される令和 3（2021）年度から，中学生が学習する英語語彙数が現在の 1,200 語程度から 1,600 ～ 1,800 語程度まで増加します。これに令和 2（2020）年度から正式に始まる小学校英語で学ぶ語（600 ～ 700 語程度）を加えると，中学生は卒業するまでに 2,200 ～ 2,500 語程度の語彙を学ぶことになります。

英語の語彙数を増やすことは決して悪いことではありません。中学卒業時に 2,000 語程度の語彙を習得しているのは理想的かもしれません。しかし，現在でも英語嫌いが増えているという報告をよく耳にしており，中学校での英語学習語彙の大幅増が，ますます英語嫌いを生み出す要因になるのではないかと危惧しています。

学習指導要領において指導語彙数が示されたのは，昭和 33（1958）年告示の学習指導要領からで，当時の語彙数は 1,100 ～ 1,300 語程度でした。また，各学年で指導する語として 520 語が必修語として指定されていました。語彙数は平成 10 年告示の 900 語を底に平成 20 年告示から上昇に転じました。また，必修語は平成 10 年告示で機能語を中心とした 100 語のみとされ，平成 20 年告示において，平成元年告示まで 507 語あった必修語の指定は完全になくなりました。

指導すべき語の選択を教科書作成側の裁量に任せることに対して一定の評価があったのも事実ですが，教科書が異なると中学生が学ぶ語彙はかなり異なるという状況が生まれました。平成 20 年告示の現行学習指導要領での語彙数は 1,200 語程度ですが，全国で使用されている 6 社の英語教科書で共通に収録されている語数は 614 語でした。共通語彙が 600 語程度あれば問題ないと思われるかもしれませんが，both，either などの重要な基本語彙の欠落は高校入試に大きな影響を与えています（島谷，2015）。

公立高校入試では，地域の中学校で採択された教科書で共通に使用されていない語については注釈がつけられることになっています。そのため，共通する語彙と注釈をつけた語でしか出題できず，同じ県内で使用される教科書の種類が多くなれば使用可能な語彙数は減るため平易な問題となり，県で 1 社の教科書のみが採用されている場合には問題は難化する可能性があります。

1,600 ～ 1,800 語程度の語数に関して，文部科学省（2017）は「小学校において中学年の外国語活動で扱ったり高学年の外国語科で学んだりした語と関連付けるなどしながら，中学校で語彙を増やしていくことを考えれば，言語活動の中で無理なく扱うことのできる程度の語数であると考えられる」（『中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説外国語編』p.34）と述べています。中学校教員は小学校での既習語彙を把握して授業で生かすことが求められているわけで，小・中連携がますます重要になりそうです。

文部科学省は，さらに受容語彙（聞いたり読んだりした時に意味がわかる語）と発信語彙（話したり書いたりする時に使える語）の区別に触れ，「『1,600 ～ 1,800 語程度』の全てを生徒が発信できるようにすることが求められているわけではないことにも留意する必要がある」（同 p.34）と述べ，「発信語彙として習得する語彙について，明確な目標を設定して指導計画を作成する」（同 p.35）ことを求めています。

従来は，中学で学ぶ語彙の大半は発信語彙として習得されることが求められていましたが，受容語彙で留まる語も容認されるという認識に立った指導も大切です。そして，目標とした語を発信語彙として定着させ，すべての生徒が参加したくなるような言語表現活動を頻繁に行うことが重要となります。

●参考文献
島谷浩（2015）「中学生が学ぶべき基本英単語に関する考察」『英語教育（熊本県中学校英語教育研究会会誌）』,45,9-12.

夏休みや冬・春休みの副読本として最適です！

CD付き リーディング教材

A1[2]… 定価 本体580～600円＋税　各巻A5判/40～48頁
B1…… 定価 本体600円＋税　CD1枚付き

好評発売中！ 新イージェストシリーズ

A1

アリババと 40 人の盗賊★

- 世界の名作を，いずれも中学校段階から読めるように，やさしい英語で書き直してあります。
- CDには本文すべてを収録してありますので，目と耳で楽しみながら学習できるリーディング教材です。

※ 読む時期の目安
A1[2]（中学2年前[後]期～）／B1（中学3年前期～）

A2

ドン・キホーテ

A2

神秘の島★

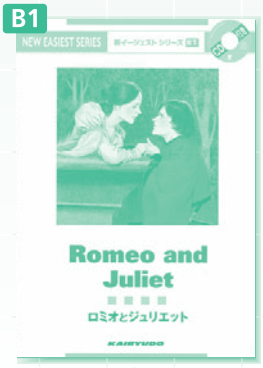
A2

イソップ物語★

A2

耳なし芳一・雪女

B1



ロミオとジュリエット★

B1

オー・ヘンリー短編集★

★はワークシート付きです。

KAIRYUDO 開隆堂出版株式会社
本　社　〒113-8608 東京都文京区向丘1-13-1 TEL 03-5684-6118 FAX 03-5684-6155

発行物のご案内はホームページでご覧いただけます。
http://www.kairyudo.co.jp/

中学校英語WEBマガジンの連載スタート！

中学校英語 WEB マガジン **Sunshine FORUM** 令和版

弊社ホームページでは，『中学校英語 WEB マガジン Sunshine FORUM 令和版』として英語教育に関する有益な情報を発信いたします。

第１回 新学習指導要領の「新機軸」とは何か
中嶋 洋一（関西外国語大学教授）

第２回 アウトプット重視で本当の学力がつく
吉田 喜美子（佐賀県吉野ヶ里町立東脊振中学校教諭）

第３回 即興力の育成はどのようになすべきか？
大塚 謙二（北海道壮瞥町立壮瞥中学校教諭）

以降，続々アップロード予定！

頭と心が動く英語授業を小・中・高すべての先生方へ

「プロ教師」に学ぶ
真のアクティブ・ラーニング
"脳働"的な**英語学習**のすすめ

A5判／288ページ■定価　本体2,700円+税

編著
中嶋　洋一（関西外国語大学教授）
直山木綿子（文部科学省視学官）
久保野雅史（神奈川大学教授）

新学習指導要領対応

登場するのは"脳働"的な授業作りの「プロ」ばかり。知りたかった秘訣が学べる名著。
12人の実践家の芸術的な授業に「科学的考察と分析」を加えたアクティブ・ラーニングの指南書。

英語教育 非売品
Vol.72-1 （通巻551号）

2020年2月25日印刷　2020年2月28日発行　編集兼発行人　大熊 隆晴
印刷所　株式会社平河工業社　〒162-0814 東京都新宿区新小川町3-9
発行所　開隆堂出版株式会社　〒113-8608 東京都文京区向丘1-13-1
☎（03）5684-6121（営業），5684-6118（販売），5684-6115（編集）
http://www.kairyudo.co.jp/

開隆堂出版株式会社 KAIRYUDO
本社 〒113-8608 東京都文京区向丘1-13-1 ☎03（5684）6111

北海道支社	〒060-0061	札幌市中央区南一条西6-11 札幌北辰ビル8階	☎011（231）0403
東北支社	〒983-0852	仙台市宮城野区榴岡4-3-10 仙台TBビル4階	☎022（742）1213
名古屋支社	〒464-0802	名古屋市千種区星が丘元町14-4 星ヶ丘プラザビル6階	☎052（789）1741
大阪支社	〒550-0013	大阪市西区新町2-10-16	☎06（6531）5782
九州支社	〒810-0075	福岡市中央区港2-1-5 FYCビル3階	☎092（733）0174